



ユースが行く！！ みっちゃん編

＜今回は学校法人松本学園しんまつ幼稚園の寺田美子園長先生にお話を伺いました＞

クラブプロフィール

クラブ名 新松戸幼稚園
活動場所 千葉県松戸市
メンバー 約350人
(園児の他に同園を卒業した
小学1年生も2016年から登録)
活動開始 2014年～

活動のきっかけ

松戸市内を流れる坂川は、昔は水が綺麗でホタルが多く生息する川だったそうです。しかし、だんだん汚くなり自転車などの大きなゴミも捨てられているような川になってしまいました。そこで、市の河川を管理する部署の方と一緒に船を出し新松戸幼稚園の先生たちが川の清掃に参加することにしました。このきっかけから、ホタルの住める環境へという思いから環境活動へ目を向けるようになったそうです。普段の活動は、主に自然とふれあったり、ひょうたんづくりをしたり幼稚園児でもできる活動です。寺田先生は幼児教育はエコや環境につながっているものが多いと話します。そのことを、大人が気がつきエコ活動として認識して保育をするか、別物としてみるかという違いがあり、エコにかかわらずいろいろなことにつながっていることに気づくことが大切だそうです。

エコパーティー 6月11日土曜日

新松戸幼稚園では、毎年親子や地域の方が参加できる「エコパーティー」を開催しており、今回第14回目のエコパーティーにおじゃましました。園児達が日頃行っているエコ活動を展示し、父兄や地域の方々にご覧いただいたり、育てているホタルの暗室での鑑賞、生態紹介、ミミズコンポストの作成コーナーなど魅力的なものがたくさんありました。特に、ホタルの生態をクイズやストーリー風の絵で紹介しており、とても分かり易かったです。また、子どもたちは不要になったペットボトルなどの中にドングリを入れて、オリジナルの楽器も作りました。子どもたちは作った楽器持ちより、ホールで開かれた「リサイクルでリサイタル」で、園を卒業したお姉さんかなる「新松戸少女合唱団」と地域の「松戸ブラソルケスター」の皆さんと一緒に楽しく演奏しました。



活動を通じて

多くの子ども達はポイ捨てをしないといけないというルールとして知っていてポイ捨てをしない子がほとんどです。ですが、しつこくして知っているのではなく生物の生態などを通して循環、ストーリーとして子どもたちが学ぶことで理解して行動することが大切だと寺田園長先生考えているそうです。エコや省エネといっても子どもたちだけでなく大人でも難しいイメージを持ちやすいものです。しかし、身近な空き箱の再利用や生物の生態を知ることでエコに興味や関心を持つ子どもが増えます。興味関心は遊びの中で学び、その延長線上にエコにつながることを知ることで、環境についてだけでなく様々なものへの探究心が生まれると考えています。そんな探究心を持った子どもたちが、これがエコだということではなく、ごく当たり前のように環境に良いことを行えるようになっていくと嬉しいとおっしゃっていました。

寺田園長先生からのメッセージ

「環境活動」と難しくならず、日頃の保育の中でもできることを取り入れて、無理なく行うことが大切だと思います。「何をしたら良いか」「これからどうしたら良いのか」というのは子どもが教えてくれることがあります。きっかけは大人たちでもその活動へのヒントは子どもたちがくれます。子どもの目線からヒントをもらい続けていくことの大切さに気づきました。まずは活動をすることにチャレンジして欲しいです。

編集後記

エコパーティーでは、多くの園児や卒園生たちが楽しそうにドングリで楽器を作っている姿やミニミズコンポストを作って嬉しそうにしている姿を見ることができました。自分たちが楽しく学んでいるというのは子どもたちにとっても続けやすいことだと思います。寺田先生とのお話の中で興味深い取り組みを聞きました。年長組の子ども達が先生となり、保護者に環境への取り組みを説明するという取り組みを行っているとききました。例えば、エコバッグを持ってお買い物をするを説明するため、保護者の人にはお客さん役、園児たちにはお店の人の役をするそうです。これらのことをはじめとして、子ども達が学んだこと感じたことを大人に話すことで大人への環境に対する意識も変わっていくように感じました。また、メッセージにもあった「ヒントは子どもがくれる」という言葉も大人が気づかないことやできないと思っていることでも、子ども達のちょっとした気づきが何かにつながるという意味でもとても大切な言葉だと思いました。(みっちゃん)